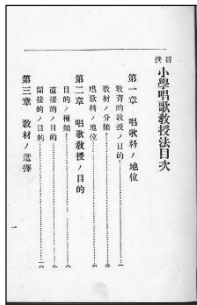
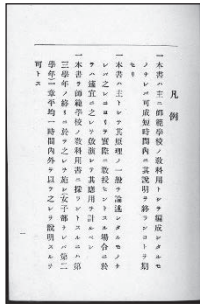
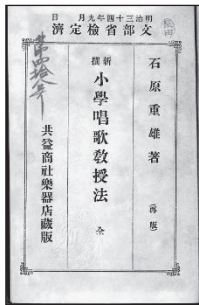


しんせんしょうがくしょうかきょうじゅほう

# #15 新撰小學唱歌教授法 再版

編者：石原 重雄 (いしはら・しげお 生没年不詳)

刊行：明治 34 年 (1901)



※左より、中表紙、凡例、目次



## ♪ 解題

### ■ 内容

『新撰小學唱歌教授法』は音楽教師を対象とした指導用教科書の1つで、初版は明治33年(1900)刊行である。当時は、主に徳育を目的とした音楽教育を日本に普及させるため、唱歌教育を行うことができる教員の養成が急務であった。従って、急ごしらえで養成された教員が唱歌教育を行うため、教授法に関する資料が様々に出版されており、本書もその中の1つにあたる。

「凡例」に、「本書ハ主ニ師範学校ノ教科用トシテ編成シタルモノナレバ可成短時間内ニ其説明ヲ終ランコトヲ期セリ」とあるように、本書は94ページの小冊子である。しかし、その構成は第1章の「唱歌科ノ地位」からはじまり唱歌教授の目的や教材の選定、児童の発声をふまえた具体的な教授法まで、7章にわたる体系的な内容となっている。

なおこの資料(初版)は、国立国会図書館デジタルコレクションでも公開されており、インターネットを介して全文を閲覧することが可能である。

## ■ 作者

編者の石原重雄は、明治 26 年（1893）に東京音楽学校本科専修部を卒業し、新潟県の師範学校に唱歌教師として赴任している。当時は遅れた音楽教育を普及させるべく、東京音楽学校の卒業生が各府県の師範学校へと送り込まれており、石原は新潟で 3 年勤めた後も宮崎に 1 年、愛知で 2 年と各地の師範学校で教鞭をとっている。明治 35～39 年は東京府立第三中学校に唱歌教員として勤務する傍ら、授業外の活動として校友会（学友会）に音楽部を設置し唱歌のみならず、ヴァイオリンやオルガン、ピアノ等の楽器演奏についても指導を行っている。

その他の著作に、『新編吹奏楽』（1900）『オルガン・ピアノ手ほどき』（1906）『新定楽典教科書』（1913）など多数の著作を執筆している。

## ♪ 参考文献

- ・小林いつ子「日本における唱歌科の確立」（『教育学研究』28(4) 日本教育学会 1961）[Z370.5/68]
- ・『図説明治百年の児童史 上』唐澤富太郎著 講談社 1968 [372.1/87/1]
- ・『近代日本音楽教育史 2』田甫桂三編著 学文社 1981 [375.7/137/2]
- ・『本邦音楽教育史』日本教育音楽協会編 第一書房 1982 [760.7/15]
- ・坂本麻実子「明治時代の師範学校への音楽教員の配置：東京音楽学校卒業生の勤務校の調査から」（『富山大学教育学部紀要』No. 54 富山大学教育学部 2000）[Z051/652]
- ・古仲素子「1900 年代-1910 年代における旧制中学校の音楽教育：東京府立第三中学校学友会音楽部の活動に着目して」（『音楽教育学』vol. 44(1) 日本音楽教育学会 2014）※当館未所蔵 J-STAGE で閲覧可
- ・古仲素子「1920 年代の中学校における音楽部の活動」（『東京大学大学院教育学研究科紀要』No. 55 東京大学大学院教育学研究科 2016）[Z370/597]  
※該当号は当館未所蔵 東京大学学術機関リポジトリで閲覧可